

(仮称)市民の森 環境整備構想



(仮称)市民の森 環境整備協議会

(仮称)市民の森 環境整備構想・目次

第1章 基本的事項	
1. 構想の対象森林	2
2. 構想策定の背景	2
3. 構想の位置づけ	3
4. 構想の目的	3
5. 構想の期間	3
第2章 基本構想	
1. (仮称)市民の森に期待する働き	4
2. (仮称)市民の森の目指すべき姿	4
3. ゾーニング	5
4. 整備の方向	5
第3章 森づくりの進め方	
1. 整備計画区域	6
2. 整備・作業の方法	6
3. 整備・作業にかかる費用	7
4. 利用・活用の方法	8
5. 利用・活用にかかる費用	9
第4章 森づくりに関わる者の役割	
1. 市民	10
2. 事業者	10
3. 行政	10
第5章 森づくりの仕組み	
1. 整備の推進体制	11
2. 整備の進行管理	11
3. 財政的・経済的措置	12
4. 整備の資金管理	12
5. 構想の見直し	12
巻末資料(目次)	13

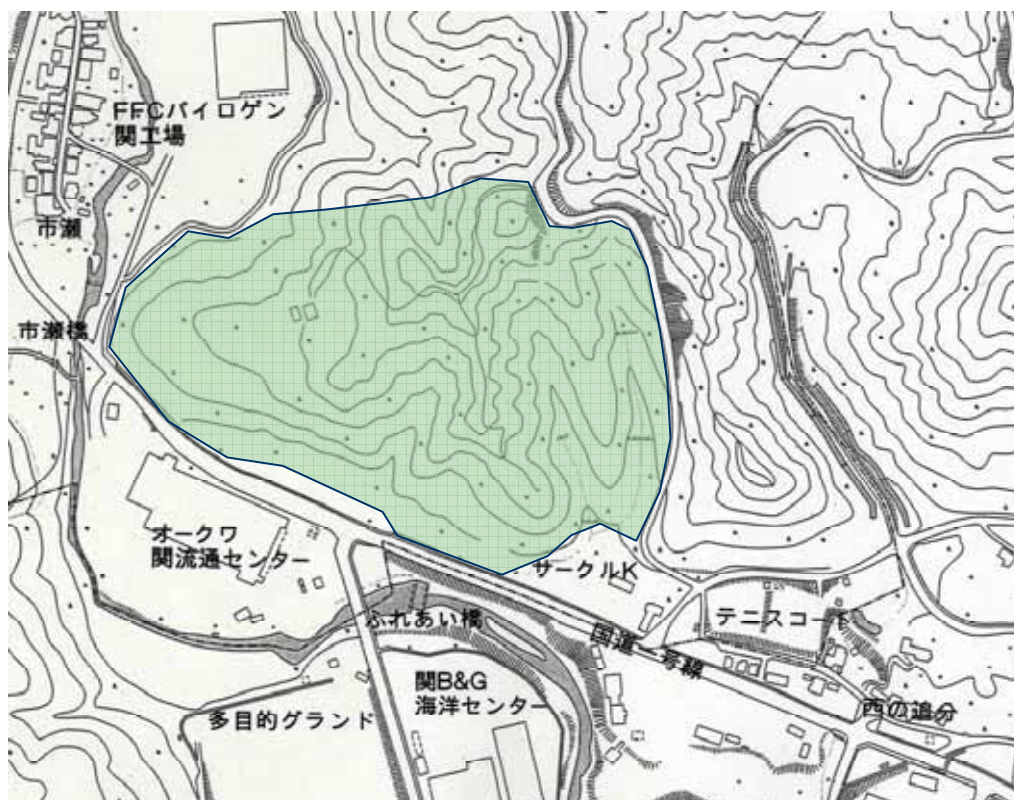
第1章 基本的事項

1. 構想の対象森林

場所 亀山市関町市瀬字転石地内（亀山市市有林）

対象森林面積 約8ha（市有林の全体面積 約50ha）

構想整備面積 2.25ha（巻末資料「整備計画区域図」参照）



（仮称）市民の森環境整備構想の対象森林の位置

2. 構想策定の背景

本地域は、観音山公園を含む鈴鹿国定公園の一部で、管理道路や展望台、散策道等の施設が整備されており、景勝地として優れた要素をもち、また、国道1号線沿線でアクセス条件が良好なことや東海道「関宿」という歴史的名勝とも近接していることから、多くの人々が利用できる場所となっています。

過去には、観音山生活環境保全林として、昭和51年度から3ヵ年をかけて、森林の持つ公益的機能の総合発揮を図り、国土の保全と県民のレクリエーション活動の場として資するため、三重県により整備されました。

しかし、その後、市民生活の変化やこどもの遊び方の変化に伴って、森林の

利用者が減少し、山の手入れがほとんど行われなくなりました。

そこで、今回、亀山市が三重県及びシャープ株式会社亀山工場から、『企業の森』づくりの提案を受けたことをきっかけに、公有財産である本市有林を整備することとなり、市民・事業者・行政が協働して、その構想策定から整備まで実施することになりました。

3．構想の位置づけ

この構想は、第1次亀山市総合計画の前期基本計画において施策の方向として示されている「自然とのふれあいの場や機会の創出」及び「森林・里山の保全」を推進するための具体的施策の一つとして位置づけられております。

また、亀山市環境基本計画における施策である「環境について学ぶ場の提供や充実」、「森林の保全」を推進するための具体的施策の一つとしても位置づけられています。

さらに、企業などの事業者（以下「事業者」という）においては、『企業の森』の趣旨である、地域との連携を深め環境保全活動に取り組み、また社員の研修・福利厚生の場として森林づくりに参加するための実践活動方針の一つとして位置づけられています。

そして、平成19年度1年間をかけて、目指すべき森林の姿を決定するため、現地観察会や動植物調査を実施し、現状把握を行い、その結果をふまえて、市民及び企業・行政の委員から構成される（仮称）市民の森環境整備協議会において、本構想を策定しました。

4．構想の目的

市民や事業所職員が自然に触れ合える機会を創出するため、（仮称）市民の森を憩いの場として、また、環境学習の場として、森林の持つ「保健休養の働き」が最大限に発揮されるよう整備することを目的とします。

そして、（仮称）市民の森を継続的に整備・管理し、積極的に利用・活用することで、森林・里山保全のための市民団体等を育成し、また支援することを目的とします。

5．構想の期間

この構想において、実施すべき山の手入れや、それに付帯するイベントなどの取り組みの計画期間は、平成20年4月1日から平成25年3月31日までの5年間とします。また、必要に応じて5年ごとに見直し、構想の更新を行うこととします。

第2章 基本構想

1.(仮称)市民の森に期待する働き

森林は、水源のかん養や土砂災害の防止、また、さまざまな動植物の生息場所としての機能を持っていますが、(仮称)市民の森では、散策や森林浴、それから森林内の自然観察が行えるような「保健休養の働き」を期待しています。

2.(仮称)市民の森の目指すべき姿

(仮称)市民の森に期待する働きが最大限に発揮されるよう、現地観察会におけるアンケート調査の結果もふまえ、(仮称)市民の森の目指すべき姿を次のとおりとします。

歩ける森・・・

(仮称)市民の森の中で癒しやくつろぎを感じることができ、利用者の健康づくりにつながるような歩ける森

遊べる森・・・

(仮称)市民の森の中で自然観察や虫とり、木工教室などを行うことで、森とふれあい、こどもから大人まで遊べる森

育てる森・・・

(仮称)市民の森にもともと生えていた植物や住んでいた動物を大切にし、利用者が、稀少種などを積極的に守り、育てる森



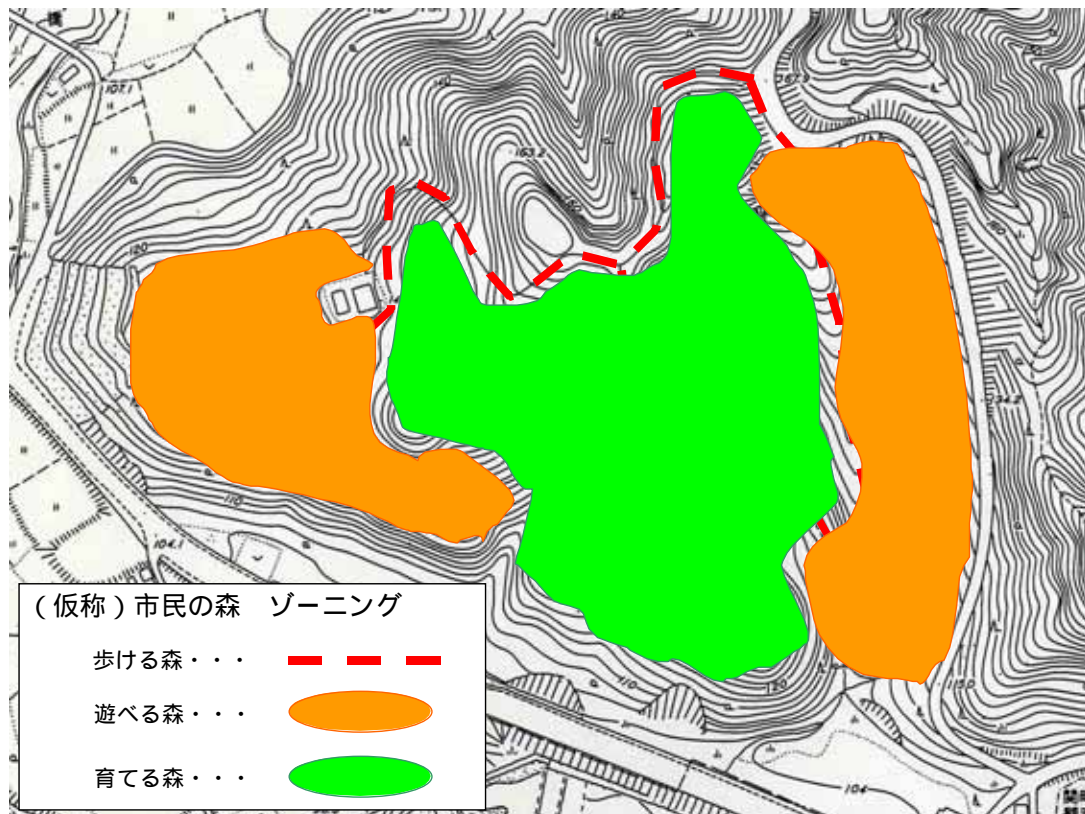
森林内を歩くようす



虫とりするようす

3. ゾーニング

(仮称)市民の森を目指すべき姿に整備するため、現在の植生、森林内の状況や今後の利用方法を考慮して、本地域を次のとおりゾーニングします。



(仮称)市民の森環境整備構想のゾーニング

4. 整備の方向

(仮称)市民の森環境整備構想のゾーニングに合った整備を進めるため、森づくりの整備の方向を次のとおりとします。

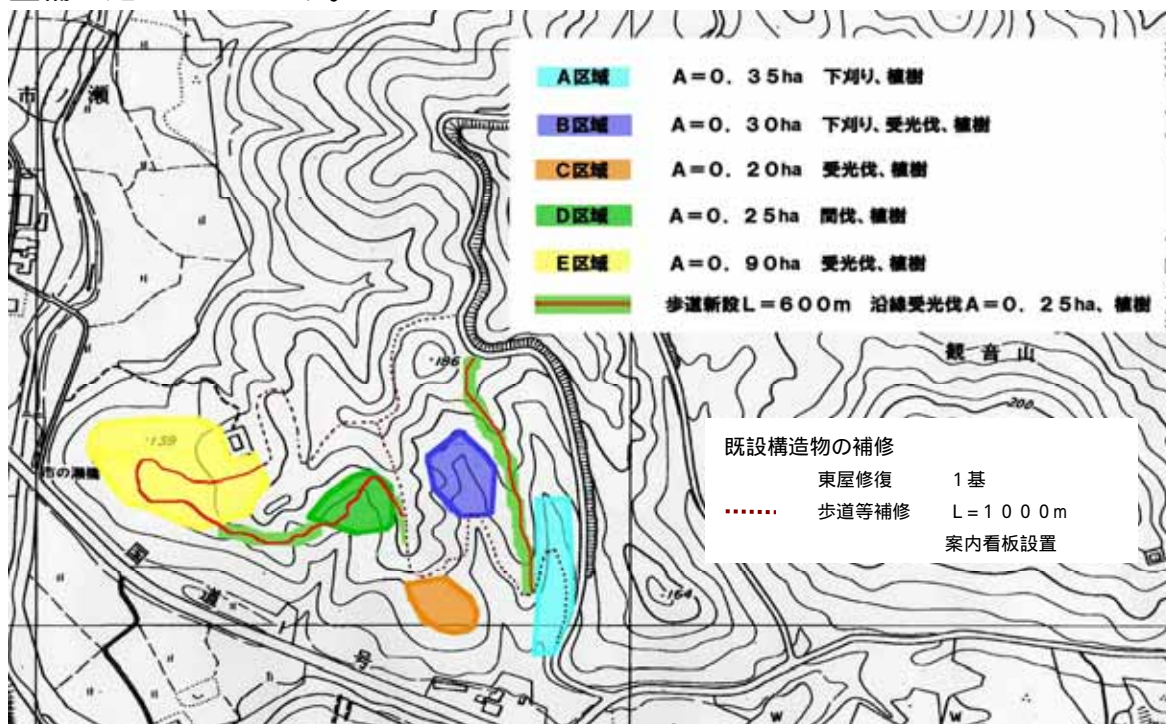
- 歩ける森** 歩道整備を行い、森林内には案内看板や標識を設置する。
また、歩道沿線は、受光伐を実施し、防犯性を高める。
- 遊べる森** 森林内で、直接、樹木に触れたり、昆虫を採取できるような樹種を選定し、植樹を行う。
また、森林内に誰でも入れるよう下刈り・間伐を実施する。
- 育てる森** 森林内で貴重な樹種が育つように、生育条件の改善を図るため下刈り・間伐を実施する。
また、本来の植生を取り戻し、多種多様な森にするため、過去の植栽木を選定し、必要に応じて伐採する。

第3章 森づくりの進め方

1. 整備計画区域

ゾーニング及び整備の方向に合った森づくりを円滑に進めるため、本地域の中に5つの整備計画区域を設定します。(巻末資料「整備計画区域図」参照)

整備計画区域以外については、市が実施する森林環境創造事業により、別途整備を進めていきます。



(仮称)市民の森環境整備計画区域

2. 整備・作業の方法

(仮称)市民の森環境整備協議会において、学識経験者・林業従事者等から整備の方法について、様々な意見が出されました。

また、現地観察会においても、参加者が必要と考える作業についてアンケート調査を実施しました。

その結果、(仮称)市民の森に必要な整備・作業を次のとおりまとめました。

必要な整備・作業

1	下刈り	平成20年度 ~ 平成24年度
2	間伐	
3	植樹	
4	歩道整備	
5	森林内の案内看板や植物等の名札等の設置	

3. 整備・作業にかかる費用

(仮称)市民の森の整備・作業にかかる費用は、下表のとおりとします。

下表の費用については、必要な整備・作業の基本的項目をまとめたものであり、来年度以降、実際の整備内容の検討により変更する場合があります。

整備計画区域ごとの内容および初年度事業費

整備年度	区 域	面積(延長)	内 容	整備初年度 事業費(円)
平成20年度	A	0.35ha	下刈り、植樹	597,000
平成21年度	B	0.30ha	下刈り、受光伐、植樹	320,000
平成22年度	C	0.20ha	受光伐、植樹	253,000
平成23年度	D	0.25ha	間伐、植樹	318,000
平成24年度	E	0.90ha	受光伐、植樹	658,000
平成20年度 平成21年度	歩道整備	L=600m 0.25ha	歩道整備(200m、400m) 沿線受光伐、植樹	453,000
平成22年度	東屋修復	1基	東屋修復	1,000,000
平成20年度 ~24年度	歩道等補修	L=1000m 2.00ha	既設歩道補修、下刈り 案内看板修復、新設	2,250,000

整備計画区域ごとによる年度別計画事業費

(円)

年度 地区	H20	H21	H22	H23	H24	計
A	597,000	87,000	87,000	87,000	87,000	945,000
B		320,000	73,000	73,000	73,000	539,000
C			253,000	50,000	50,000	353,000
D				318,000	62,000	380,000
E					658,000	658,000
歩道整備	151,000	302,000				453,000
東屋修復			1,000,000			1,000,000
歩道等補修	450,000	450,000	450,000	450,000	450,000	2,250,000
計	1,198,000	1,159,000	1,863,000	978,000	1,380,000	6,578,000

注) 初年度の翌年度からは、整備区域の下刈りを想定

4. 利用・活用の方法

(仮称)市民の森を市民・事業者・行政が協働して整備することによって、市民や事業所職員が自然に触れ合える機会を創出するため、整備内容と合わせて、次のとおり各種イベントを開催します。

また、イベントや環境学習等を通じて、森林の重要性と自然環境保全に対する意識を啓発するとともに、管理や活用を進めるための団体の育成・支援を行います。

各種イベント開催予定一覧

目的	行事名	内 容	定員	開催月
記念行事	森づくりの日	整備開始を記念したイベント 森づくり宣言を実施	100名	5月
	森づくり フェスティバル	森づくりの日に森林に関する意 識啓発に繋がるイベントを開催	100名	毎年 4月～5月
自然観察	現地観察会(春)	テーマ：植物	50名	5月
	現地観察会(夏)	テーマ：動物・昆虫	50名	8月
	現地観察会(秋)	テーマ：キノコ・木の実	50名	10月
	現地観察会(冬)	テーマ：鳥類	50名	1月
森林作業	森林作業体験	テーマ：下刈り	15名	整備に応じて
	森林作業体験	テーマ：間伐	15名	整備に応じて
	森林作業体験	テーマ：植樹	15名	整備に応じて
	歩道整備作業	テーマ：歩道整備	15名	整備に応じて
その他	木工教室	間伐材の有効利用を学ぶ	50名	間伐作業後
	昆虫採集(夜)	夜の昆虫採集(カブトムシなど)	50名	7月
	森林ウォーキング	森林内を歩き、健康づくり	50名	9月
	現地見学会	森林整備の様子を見学	50名	3月

上記内容は、開催予定イベントの一覧であり、整備状況や森林内の状況等により、イベントを選択し、開催回数や内容等を決定します。

森林・里山保全のための市民団体等の育成目標

	目標団体数	団体会員数
市民団体等の育成目標	1団体	15人

整備の過程で組織された市民団体等は、(仮称)市民の森環境整備協議会及び協議会事務局などと十分に連携を図りながら、継続的に維持管理やイベントの開催など森林保全活動を行うことを目的とします。

5. 利用・活用にかかる費用

(仮称)市民の森の利用・活用にかかる費用は下表のとおりとします。

下表の費用については、来年度以降、実際のイベント内容の検討により変更する場合があります。

各種イベント別開催費用(単年度)

イベント内容	費用内訳	開催費用(円)
記念行事	苗木、記念品	200,000
現地観察会(4回/年)	講師報償費・旅費	48,000
森林作業体験(4回/年)	指導者報償費・旅費、機器賃料	57,850
その他のイベント	講師報償費・旅費	36,000
イベント全般	資材・消耗品	58,150
計		400,000

各種イベント総開催費用(5ヵ年)

(円)

	開催費用(単年度)	計画期間	総開催費用(5ヵ年)
各種イベント	400,000	5年	2,000,000



現地観察会のようす



講師・指導者による説明のようす

第4章 森づくりに関わる者の役割

1. 市民

環境整備作業の内容を検討し、実施する。
環境整備にともなうイベントを検討し、開催する。
環境整備を行う市民団体やネットワーク等を組織する。

2. 事業者

環境整備作業の内容を検討し、実施する。
環境整備にともなうイベントを検討し、開催する。
環境整備にともない必要な資金や物資の提供を行う。
事業所職員の環境教育・研修の場として利用する。
事業所職員及びその家族の福利厚生の場として利用する。

3. 行政

環境整備作業の内容を検討し、実施する。
環境整備にともなうイベントを検討し、開催する。
環境整備に関する作業・イベントの情報を発信、提供する。
(仮称)市民の森環境整備協議会の運営及び進行を管理する。
環境整備にともない必要な資金や物資の提供を行う。



環境整備協議会のような
(市民・事業所職員、行政による整備構想の検討)

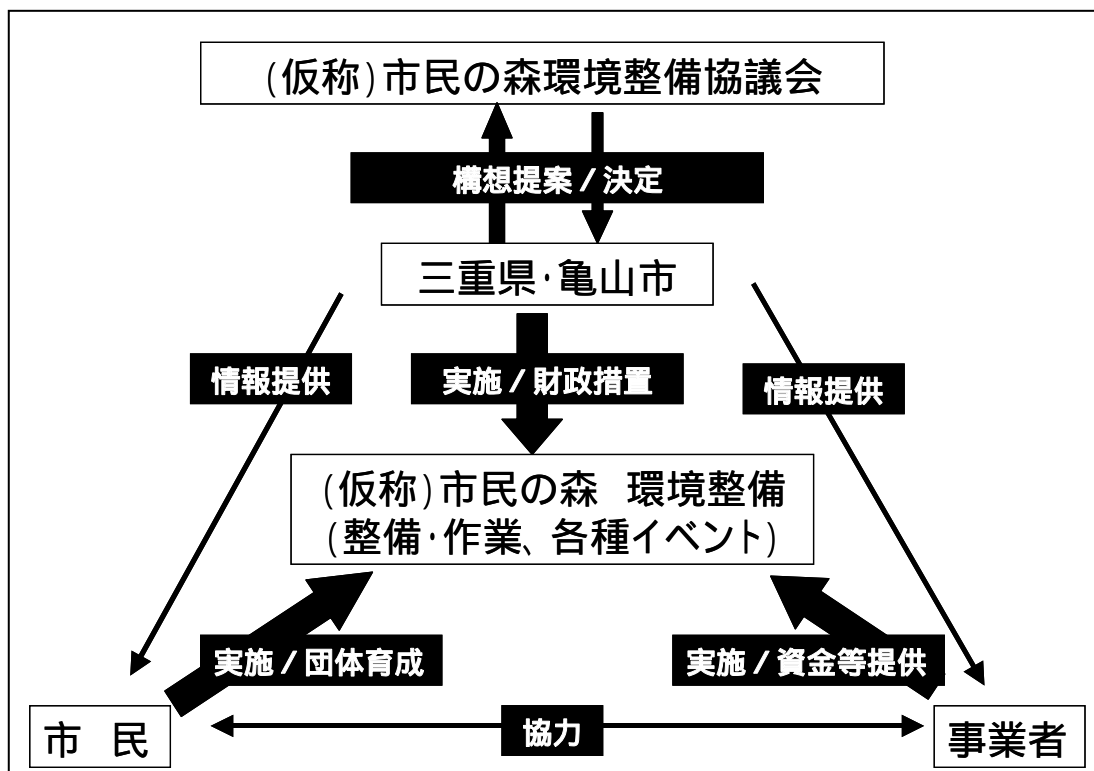


現地観察会のような
(市民・事業所職員、行政による現状把握)

第5章 森づくりの仕組み

1. 整備の推進体制

市民・事業者・行政が協働して、構想を実現するため、下図のとおり、推進体制を構築します。進行管理及び事務作業は、事務局（三重県・亀山市）が担当します。



2. 整備の進行管理

整備内容の作成

基本構想を実現するため、5カ年を計画期間とする年度ごとの整備内容とイベント内容を設定します。

整備の実施

市民・事業者・行政は協働して、整備内容に基づき、山の手入れや各種イベントを実施します。

評価

事務局は、(仮称)市民の森環境整備協議会を開催し、目標の達成状況を報告し、評価を受けます。

見直し

事務局は、(仮称)市民の森環境整備協議会の評価をもとに、未達成目標の再検討や翌年度の整備予定計画をホームページ等で公表します。

公表結果に対する意見や提言は、事務局で整理し、今後の構想に反映させていきます。

3．財政的・経済的措置

事業者は、本地域の整備を実施するにあたり、可能な限りの資金や資材の提供を行います。

行政は、本地域の整備を実施するにあたり、必要な財政上の措置を講じるよう努めます。また国や県などの補助制度を毎年度調査し、積極的に活用します。

4．整備の資金管理

整備の実施にかかる費用は、事業者の拠出金・行政の負担金等でまかない、その資金は(仮称)市民の森環境整備協議会の事務局で管理することとします。

5．構想の見直し

本構想は、5年間の計画であり、構想の最終年度に、内容等については見直すこととします。

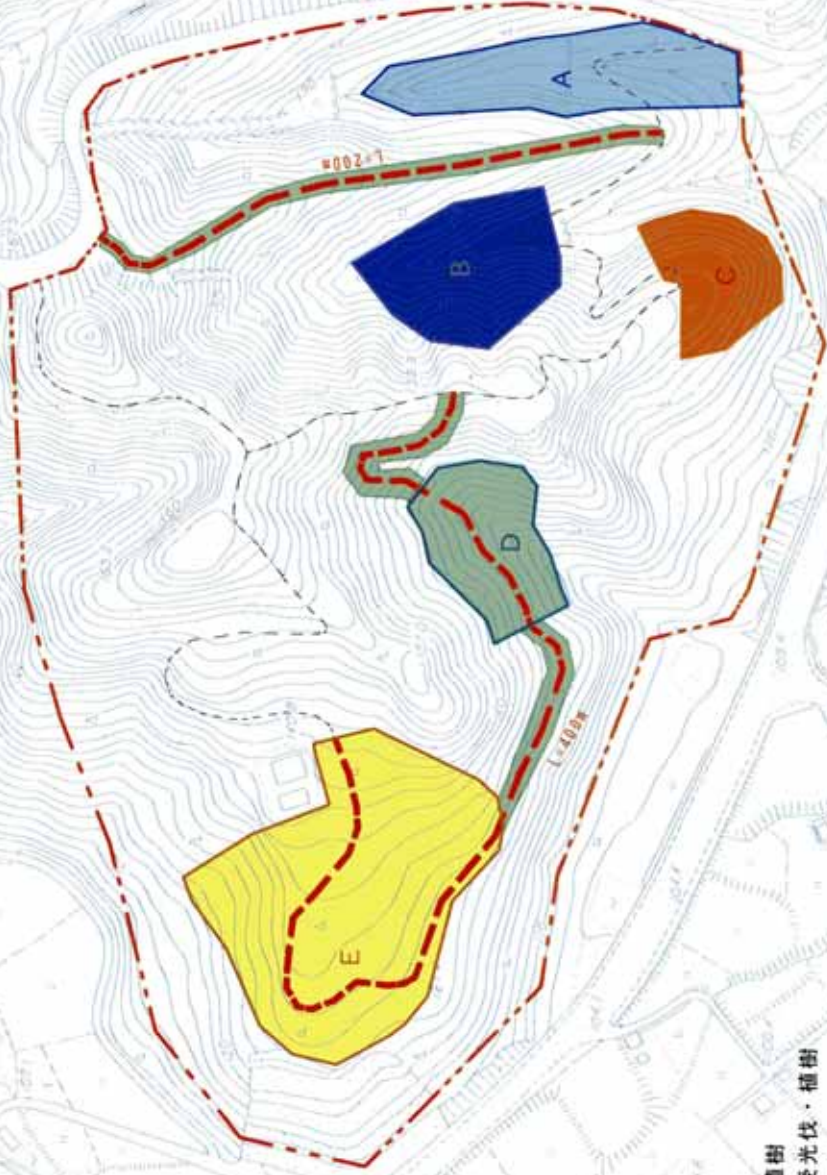
また、計画期間内において森林情勢の変化などによって、構想の見直しが必要な場合は、(仮称)市民の森環境整備協議会において協議の上、随時見直すこととします。

巻末資料(目次)

1 . 整備計画区域図(1 / 2 0 0 0)	1 4
2 . 整備計画区域の植生と森林内の状況(A 区域 ~ E 区域、新設歩道)	1 6
3 . 現地観察会参加者アンケート調査結果(概要)	2 4
4 . (仮称) 市民の森動植物調査結果(平成 19 年度)	3 2
5 . (仮称) 市民の森環境整備協議会規約・委員名簿	6 2
6 . (仮称) 市民の森環境整備構想策定かかる経過	6 6

1、整備計画区域図（1/2000）

(仮称) 市民の森整備計画区域図



- 全体整備区域
- A 区域 A=0.35ha 下刈り・植樹
- B 区域 A=0.30ha 下刈り・受光伐・植樹
- C 区域 A=0.20ha 受光伐・植樹
- D 区域 A=0.25ha 間伐・植樹
- E 区域 A=0.90ha 受光伐・植樹
- 歩道新設 L=600m
- 沿道受光伐 A=0.25ha
- 植樹
- 既設歩道

縮尺 S=1:2000

2、整備計画区域の植生と森林内の状況 (A区域～E区域、新設歩道)

A 区 域 (A = 0 . 3 5 h a)



本区域は、面積0.35haの雑草、灌木の生茂った区域です。

考えられる整備方法としては、下刈りによる雑草、灌木等の除去及び整理と、その後の植栽があります。

本区域は、管理道路からも近いため、森林整備活動区域の表玄関としての役割があり、植樹については、少し大きめの苗木を植えることができ、記念植樹を行うにも適した場所です。

また、沢筋で水気もあることから、ヤナギ、ヤマアジサイ等の植栽も行えます。

B 区 域 (A = 0 . 3 0 h a)



本区域は、面積0.30haのヒノキ林です。

一部間伐されており、両尾根部からシダ類等の下層植生が広がりつつありますが、中央部は未だ暗く、目立った下層植生はありません。

整備方法としては、更なる間伐による林床への受光条件改善と、シダ類やササ、雑草等の下刈りを行った後に、広葉樹等の植栽を行うことが考えられます。

また、凹地であることから、両尾根部の常緑広葉樹を一部刈り払って日照を確保することも必要です。

作業範囲としては、間伐面積は区域面積の約4割、下刈り面積は約3割です。

本区域では、下層植生等が無いことにより、溪岸の小崩落箇所が見られるため、広葉樹を植栽することにより、その根張りによる効果で土砂崩壊防止等の効果が見込まれます。

C 区 域 (A = 0 . 2 0 h a)



本区域は、面積0.20haの雑木林です。

クリやカシ類等が密生しているため、下層の植生は衰退しています。

整備方法としては、受光伐による林内の受光条件の改善が考えられます。

また、当該地は国道1号線に面した尾根部の眺望の良い箇所であり、逆に国道からも良く見える場所であるので、モミジ等を植栽することにより地域の景観を向上させることもできます。

D 区 域 (A = 0 . 2 5 h a)



本区域は、面積0.25haのヒノキ人工林です。

間伐などの手入れ不足により、立木が密生し、林内が暗くなっているため、多少の灌木は存在しますが、下層植生は衰退してしまっています。

整備方法としては、強度の間伐による林床への受光条件改善と広葉樹植栽による針広混交林への誘導により、土砂流出防止等の公益的機能を十分発揮できる森林にすることが考えられます。

E 区域 (A = 0.90ha)



本区域は、面積0.90haの雑木林です。

立木の密生により林内が暗くなっているため、下層の植生は衰退しています。また、マツクイムシ被害による枯損したマツが各所に見られます。

整備方法としては、受光伐(特に常緑広葉樹を対象)による林内の受光条件改善、枯損木の伐採、花木等の植栽が考えられます。

また、植栽木については、本区域には比較的高木の広葉樹が既に存在するので、中低木の花木が適当と考えられます。

歩道新設（L = 600m）

各整備箇所の有機的な利活用を図るため歩道新設を2箇所提案します。

歩道幅員は0.6m～1.0mで、伐採木等を利用した階段を適時配置します。

第1はA区域からアスレチックコース出発点を結ぶ線形で、A区域とB区域の間の尾根部に設置します。

新設延長は200mで、歩道設置とともに沿線の受光伐を行い、記念植樹を行うこともできます。

第2はC地区先の既設歩道とE地区を結ぶコースで、これにより各整備区域が密接に結ばれることとなります。

整備後に森林浴など利活用を図る場合に様々なコースが楽しめます。

新設延長は400mで、第1と同じく沿線の受光伐と記念植樹を提案します。

3 . 現地観察会参加者アンケート調査結果 (概要)

(仮称) 市民の森 環境整備構想の策定に関する

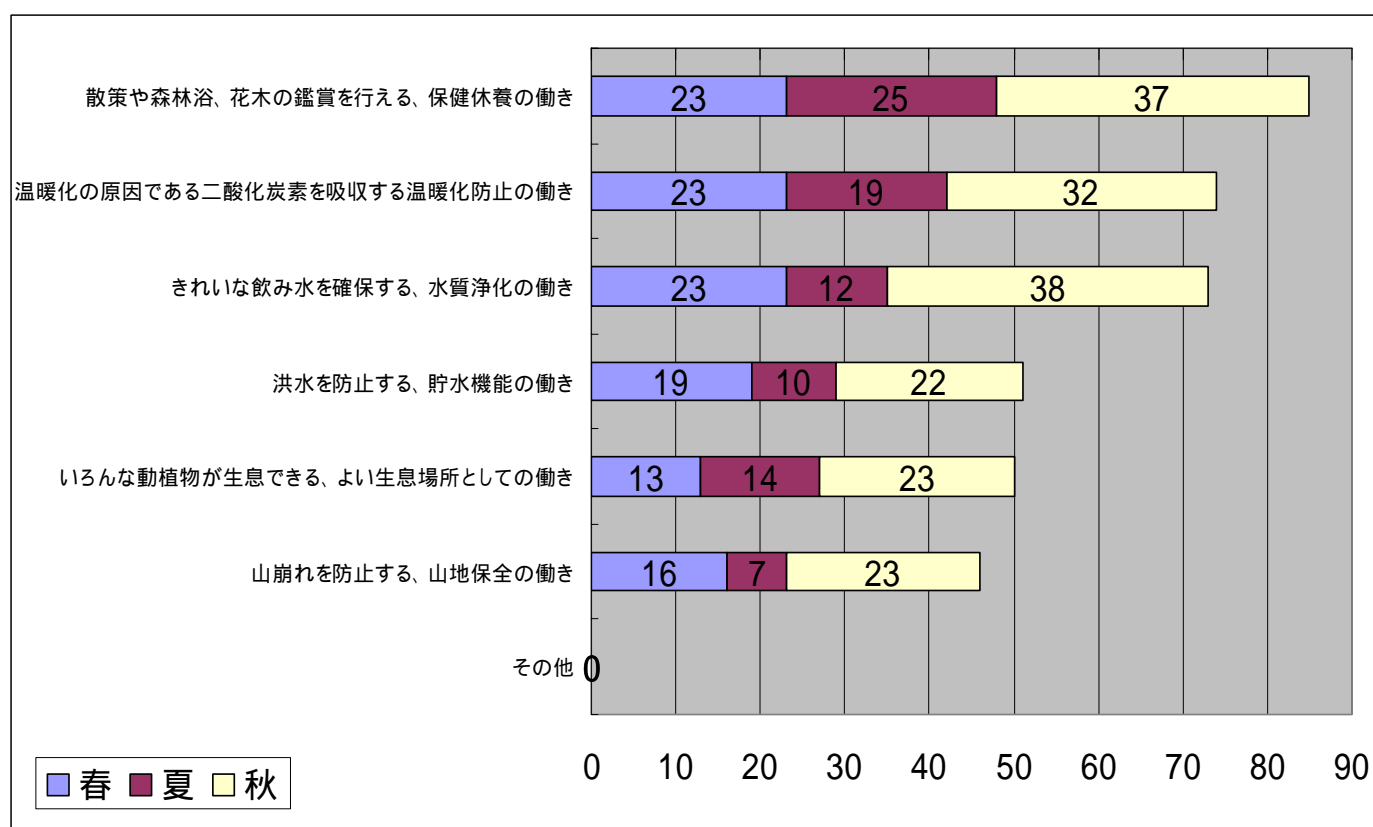
「現地観察会参加者アンケート調査」(3回実施)結果の抜粋

【回答者数 156】

森に期待する働き

問 あなたが森に求める働きは、どのようなことが教えてください。(3つまで回答可)

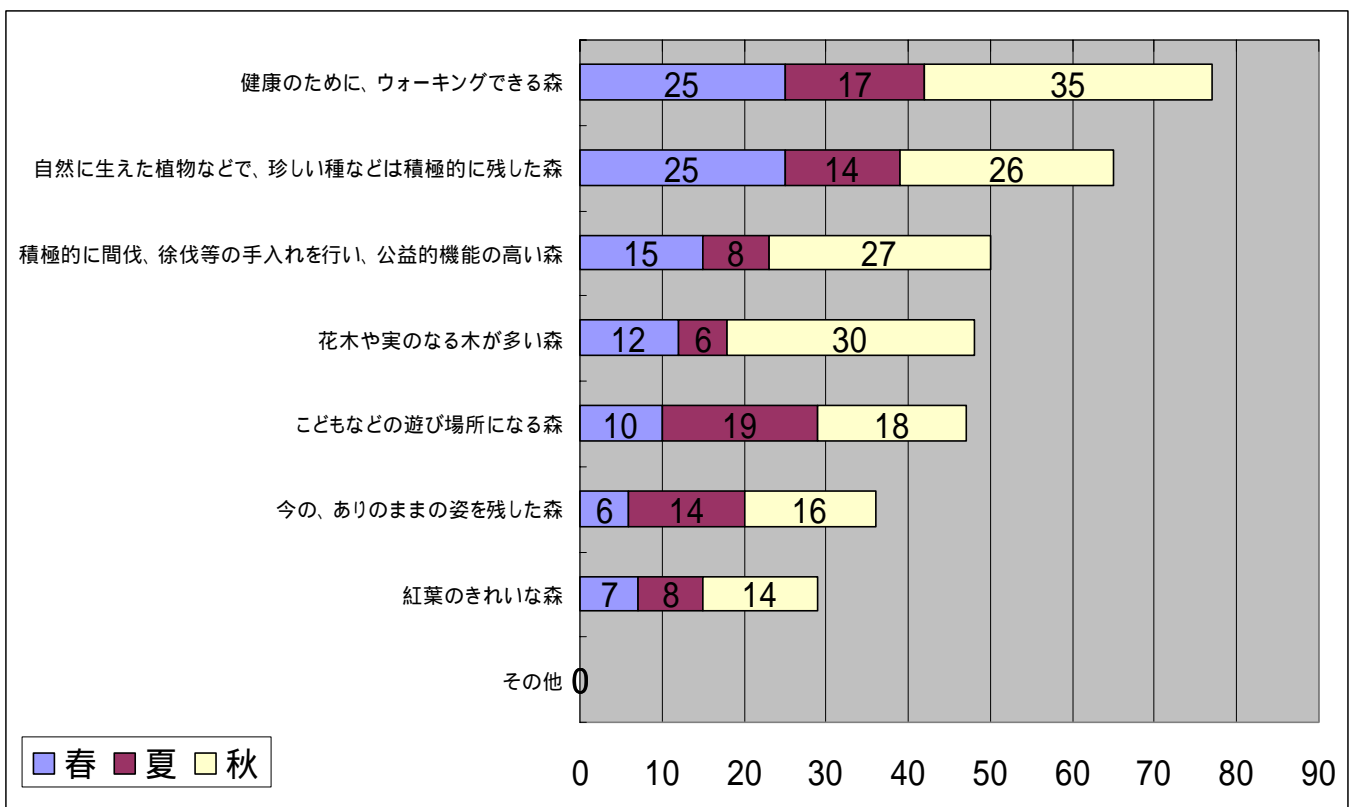
ア	散策や森林浴、花木の鑑賞を行える、保健休養の働き	・・・	85
イ	洪水を防止する、貯水機能の働き	・・・	51
ウ	山崩れを防止する、山地保全の働き	・・・	46
エ	きれいな飲み水を確保する、水質浄化の働き	・・・	73
オ	温暖化の原因である二酸化炭素を吸収する、温暖化防止の働き	・・・	74
カ	いろんな動植物が生息できる、よい生息場所としての働き	・・・	50
キ	その他(なし)	・・・	0



目指すべき森の姿

問 (仮称)市民の森がどのような森林になればよいと考えますか。(3つまで回答可)

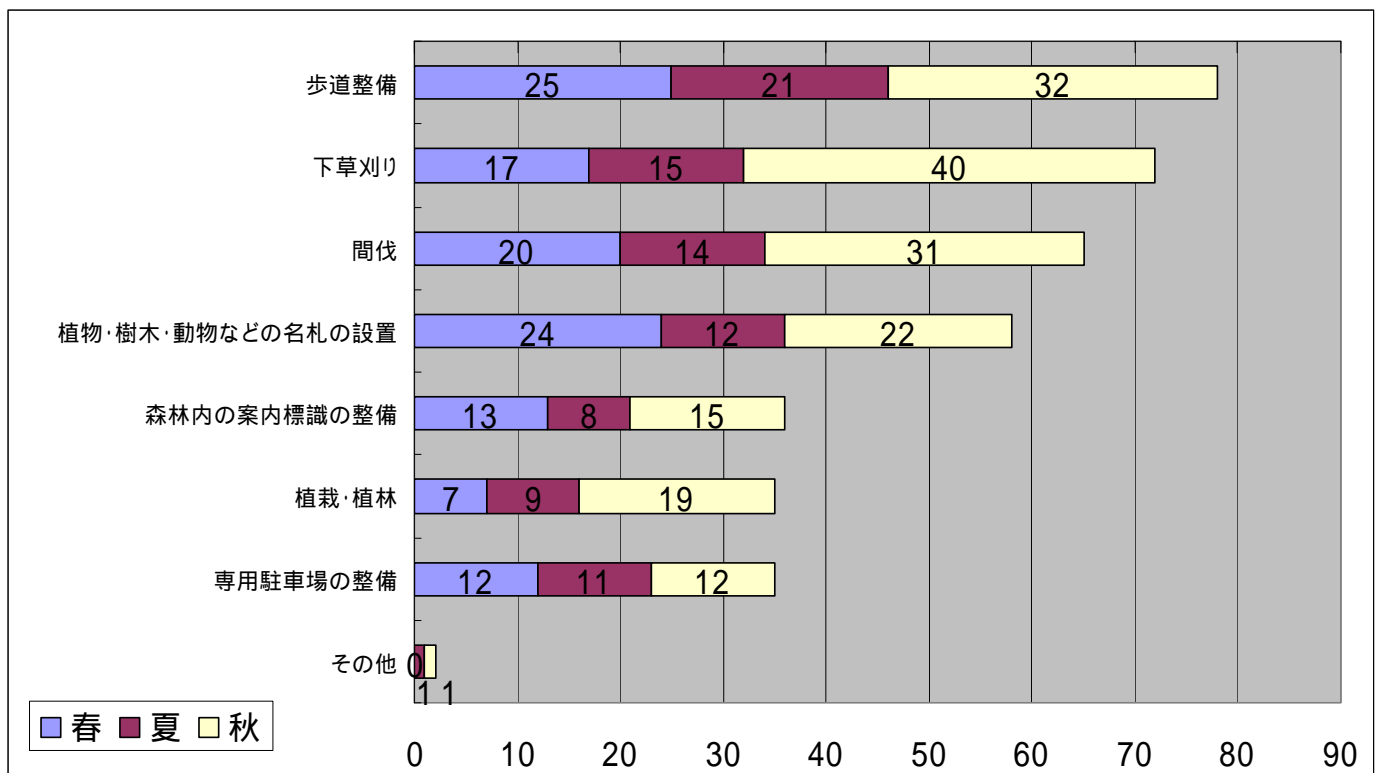
ア	今の、ありのままの姿を残した森	・・・	36
イ	自然に生えた植物などで、珍しい種などは積極的に残した森	・・・	65
ウ	積極的に間伐、徐伐等の手入れを行い、公益的機能の高い森	・・・	50
エ	花木や実のなる木が多い森	・・・	48
オ	紅葉のきれいな森	・・・	29
カ	子どもなどの遊び場所になる森	・・・	47
キ	健康のために、ウォーキングできる森	・・・	77
ク	その他(なし)	・・・	0



整備・作業の必要性

問 今後、(仮称)市民の森を活用・利用するためには、どのような作業が必要と考えますか。(3つまで回答可)

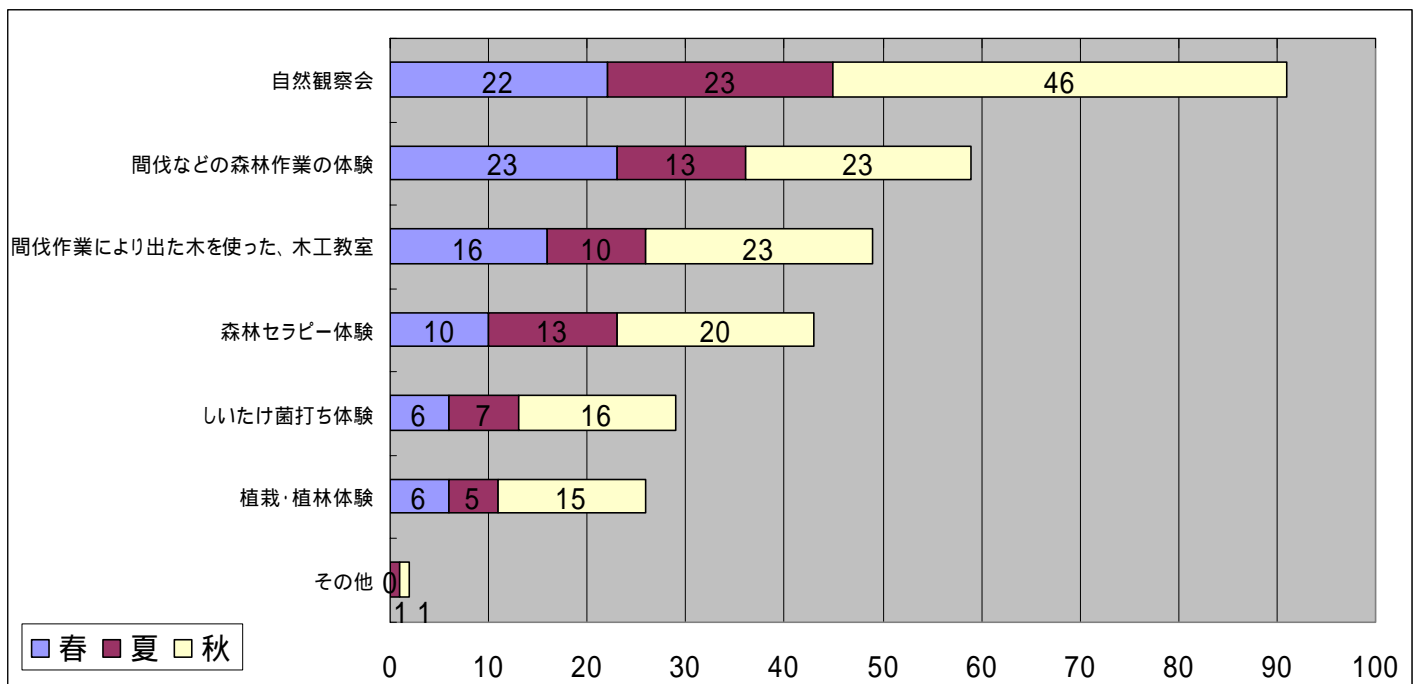
ア 間伐	・・・	65
イ 下草刈り	・・・	72
ウ 植栽、植林	・・・	35
エ 歩道整備	・・・	78
オ 植物・樹木・動物などの名札・標識の設置	・・・	58
カ 森林内の案内標識の整備	・・・	36
キ 専用駐車場の整備	・・・	35
ク その他(杉・桧の除去など)	・・・	2



今後の利用・活用方法

問 今後、(仮称)市民の森を利用して、あったらいいなと思うイベントや行事について教えてください。(3つまで回答可)

ア	自然観察会	・・・	91
イ	間伐などの森林作業の体験	・・・	59
ウ	間伐作業により出た木を使った、木工教室	・・・	49
エ	植栽・植林体験	・・・	26
オ	森林セラピー体験	・・・	43
カ	しいたけ菌打ち体験	・・・	29
キ	その他(アーチェリー、ハイキング)	・・・	2

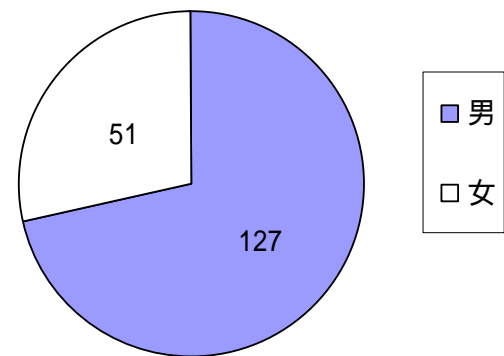


回答者の属性 (3回合計)

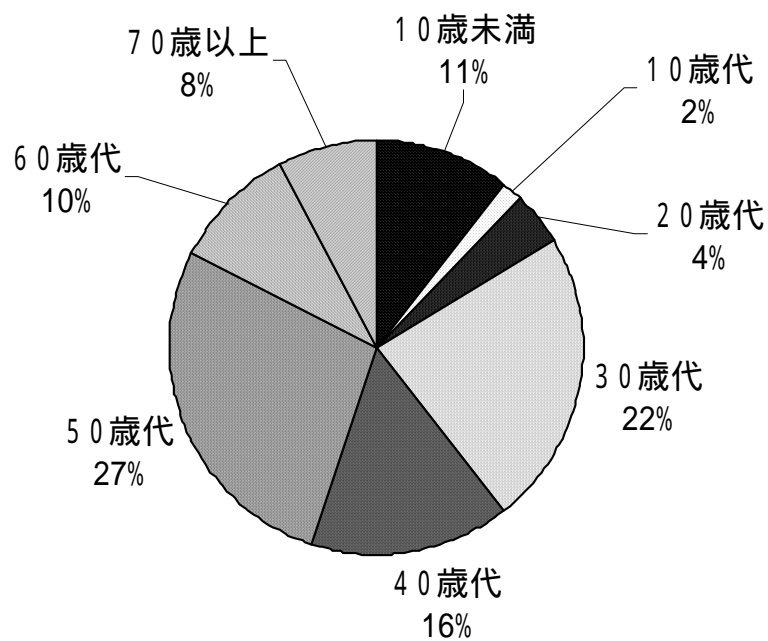
性別・年齢構成の中には、こどもの数も含まれています。

・性別

	男	女
春の部	40	4
夏の部	38	14
秋の部	49	33

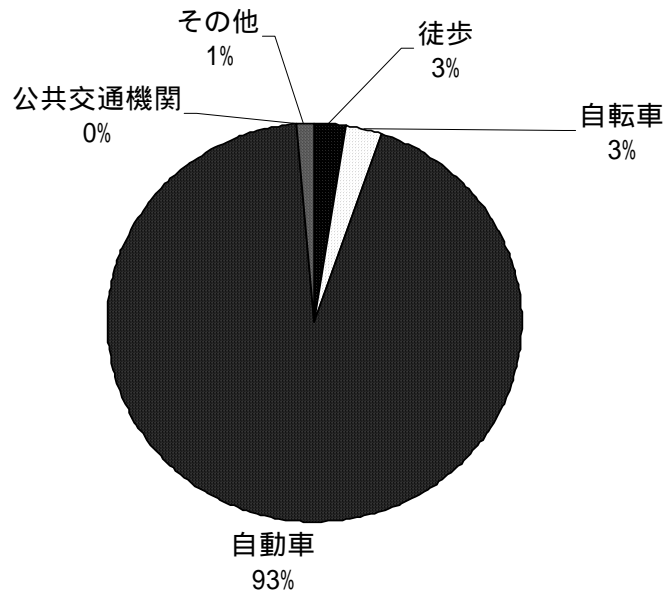


・年齢構成



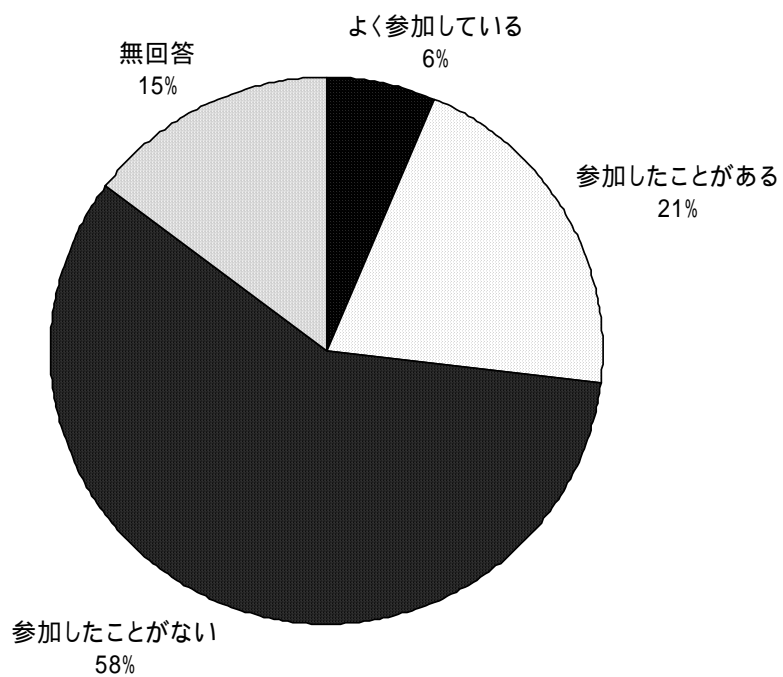
・交通手段

ここまで、どのような手段で来ましたか。



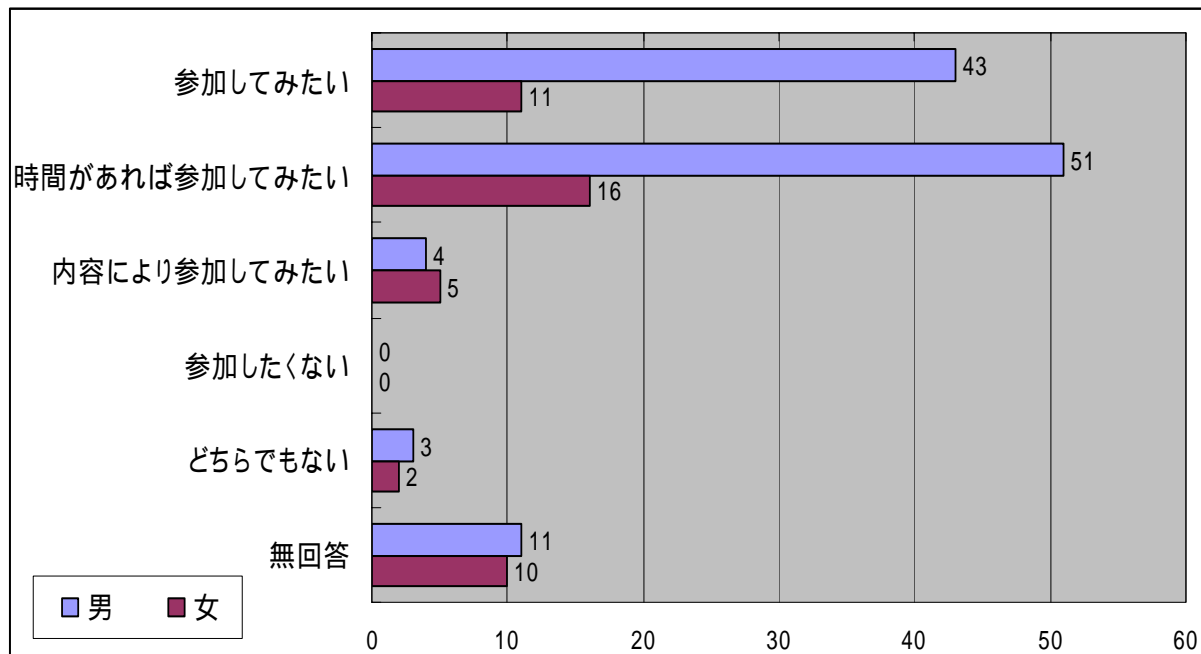
・経験

これまでに森林整備のための活動をされたことがありますか。(ボランティア活動やイベント・行事、体験学習など)



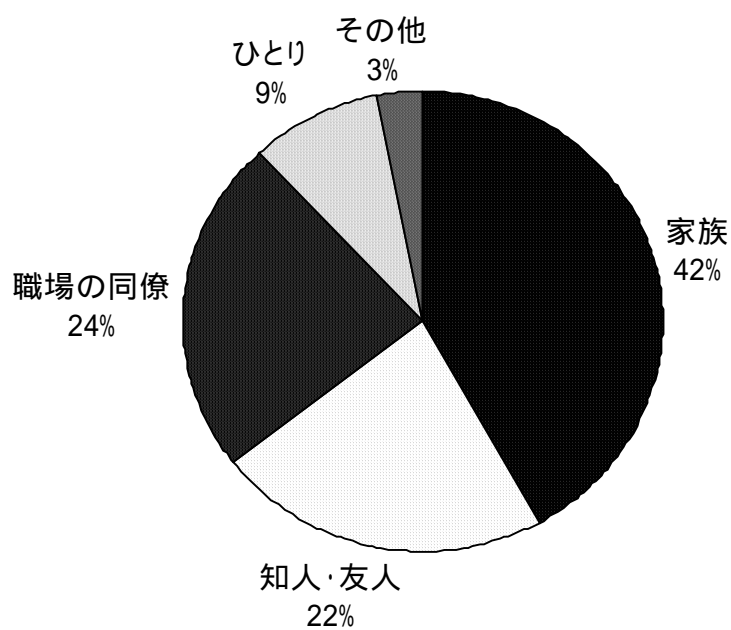
・参加意欲

整備のためのボランティア活動やイベント・行事、体験学習に参加しようと思いませんか。



・参加主体

現地観察会が開催されれば、誰と参加しようと思いませんか。



4、(仮称)市民の森動植物調査結果 (平成19年度)

(調査時期)

平成19年5月15日、10月10日実施(植物)

平成19年8月2日、4日(哺乳類、両生・爬虫類、昆虫類)

平成19年10月16日(鳥類)

(植物編)

1. 植物



コシダ (ウラジロ科)
乾燥地に生える常緑のシダ。



ウラジロ (ウラジロ科)
常緑のシダ。暖地では5～6mの大きさになる。
葉は正月の注連縄に利用される。



ヤマモモ (ヤマモモ科)
常緑広葉樹林の構成樹種。



ヒメヤシャブシ (カバノキ科)
崩壊地の砂防用に利用される肥料木。



モクレン属の一種：植栽 (モクレン科)



ヒメクロモジ (クスノキ科)
この仲間は高級爪楊枝として利用される。葉脈が左右に数本ある。葉の長さは5～10cmと短い。



アケビ(アケビ科)
葉が5枚で、葉の縁にギザギザがない。



ウツギ(ユキノシタ科)
「うの花の匂う…」はこの植物。



コアジサイ(ユキノシタ科)
小紫陽花。小さな薄紫の花をたくさん付ける。



ニガイチゴ(バラ科)
果実を食べると後で苦味が残る。



ハネミヌエンジュ(マメ科)
種子に翼があり、風によって飛ぶ。



ユズリハ:植栽(ユズリハ科)



ヤマウルシ (ウルシ科)

触ると被れることもある。特に肌の弱い人は注意が必要。



ソヨゴ (モチノキ科)

二次林に多い。枝をゆすると“そよそよ”と音がする。



ガンピ (ジンチョウゲ科)

樹皮が強靱で和紙の原料とされる。



タラノキ (ウコギ科)

芽を食用にするが、全ての芽を採ると枯れてしまう。枝、葉に鋭いトゲがある。



カインアンサラサドウダン (ツツジ科)

この場所に生育する本種は、ほぼ北限に近い生育地で貴重である。



アセビ (ツツジ科)

早春に白い花が垂れ下がって咲く。漢字では馬酔木と書く。



ヤマツツジ (ツツジ科)
花の付け根を触るとネバネバする。
がくが長い。関西の丘陵地を代表するツツジ。



モチツツジ (ツツジ科)
花の付け根を触ってもネバつかない。
がくが短い。越冬する葉は硬くて小さい。



イブセンリョウ (ヤブコウジ科)
暖地性の種なので北へ行くにしたがって少なくなる。
亀山市では希。



クロバイ (ハイノキ科)
この地域には特徴的に多い。
5月ごろに開花し、芽香が漂う。



カキドオシ (シソ科)
花が終わって茎が倒れると、地面を這って垣根の
向うまで伸びていくので“垣通し”という。



コツクバネウツギ (スイカズラ科)
やや大きめの2～3枚のがく裂弁が特徴的。この
この地域礫岩の丘陵地に多い。



タニツギ (スイカズラ科)
本来日本海側を中心に分布するが、三重県では北～中勢の丘陵地にまで分布する。



ノアザミ (キク科)
初夏から夏に咲くアザミ。多くのアザミは秋に咲く。



ハルジオン (キク科)
帰化植物。つぼみの時はうなだれている。



ニガナ (キク科)
茎も葉も切ると白い乳汁が出る。噛むと苦味がある。



ササユリ (ユリ科)
6月頃淡いピンク色の花を咲かせる。



ノギラン (ユリ科)
丘陵地の乾燥した斜面に多い。夏に地味な白い花が咲く。



マムシグサ (サトイモ科)
茎の様子がマムシに似ている。



コジュズスゲ (カヤツリグサ科)
湿り気が多い場所に多い。



シラスゲ (カヤツリグサ科)
葉の裏が白味を帯びている。



ヤマテキリスゲ (カヤツリグサ科)
やや希な種。溪流辺のみで見られる。



ヒカゲスゲ (カヤツリグサ科)
褐色の細い穂が特徴的。



モエギスゲ (カヤツリグサ科)
日当たりの良い土手に多い。穂が萌黄色であるため。雄の穂に特徴がある。

確認種リスト

1. 植 物

植物確認種リスト

植物

	科名	和名	学名	備考
	シダ植物			
1	ヒカゲノカスラ	トウゲシバ	<i>Lycopodium serratum</i>	
2	トクサ	スキナ	<i>Equisetum arvense</i>	
3	センマイ	センマイ	<i>Osmunda japonica</i>	
4	キシノオシダ	キシノオシダ	<i>Plagiogyria japonica</i>	常緑広葉樹林構成種
5	ウラジロ	コシダ	<i>Dicranopteris linearis</i>	
6		ウラジロ	<i>Gleichenia japonica</i>	暖地性
7	コバノシカガマ	フモトシダ	<i>Microlepia marginata</i>	
8		ワラビ	<i>Pteridium aquilinum</i> var. <i>latiusculum</i>	陽地性
9	ホノケウシダ	ホラシノブ	<i>Sphenomeris chinensis</i>	
10		タチシノブ	<i>Onychium japonicum</i>	
11	イノモトソウ	オオバノイノモトソウ	<i>Pteris cretica</i>	
12		イノモトソウ	<i>Pteris multifida</i>	
13	シシガシラ	シシガシラ	<i>Blechnum niponicum</i>	
14	オシダ	オニカナワラビ	<i>Arachnioides simplicior</i> var. <i>major</i>	
15		リュウモンシダ	<i>Arachnioides standishii</i>	スギ植林指標種
16		ヤブソテツ	<i>Cyrtomium foutunei</i> var. <i>fortunei</i>	
17		ヤマイタチシダ	<i>Dryopteris bissetiana</i>	常緑広葉樹林構成種
18		サイコクヘニシダ	<i>Dryopteris championi</i>	
19		ヘニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>	常緑広葉樹林構成種
20		オオヘニシダ	<i>Dryopteris hondoensis</i>	
21		クマワラビ	<i>Dryopteris lacera</i>	落葉広葉樹林構成種
22		オオイタチシダ	<i>Dryopteris pacifica</i>	常緑広葉樹林構成種
23		オクマワラビ	<i>Dryopteris uniformis</i>	
24		イノテ	<i>Polystichum polyblepharum</i>	常緑広葉樹林構成種
25		シユウモンシダ	<i>Polystichum tripterum</i>	スギ植林指標種
26	ヒメシダ	ミヅシダ	<i>Stegnogramma pozoi</i> subsp. <i>mollissima</i>	
27		ホシダ	<i>Thelypteris acuminata</i>	
28		コハシコシダ	<i>Thelypteris angustifrons</i>	
29		ゲシゲシシダ	<i>Thelypteris decursive-pinnata</i>	
30		ハリガネワラビ	<i>Thelypteris japonica</i>	
31		ヒメワラビ	<i>Thelypteris torresiana</i> var. <i>calvata</i>	
32	イワデシダ	ヒロハイヌワラビ	<i>Athyrium wardii</i>	
33		シケシダ	<i>Deparia japonica</i>	
34	ウラボシ	ノキシノブ	<i>Lepisorus thunbergianus</i>	
	種子植物(裸子植物)			
35	マツ	アカマツ	<i>Pinus densiflora</i>	アカマツ林構成種
36		アイクロマツ	<i>Pinus x densi-thunbergii</i>	栽?
37		クロマツ	<i>Pinus thunbergii</i>	栽
38	スギ	スギ	<i>Cryptomeria japonica</i>	栽
39	ヒノキ	ヒノキ	<i>Chamaecyparis obtusa</i>	栽
	種子植物(被子植物)			
	双子葉植物(離弁花類)			
40	ヤマモモ	ヤマモモ	<i>Myrica rubra</i>	栽?
41	カバノキ	ヒメヤシャブシ	<i>Alnus pendula</i>	栽
42		オオバヤシャブシ	<i>Alnus sieboldiana</i>	栽
43	アナ	クリ	<i>Castanea crenata</i>	落葉広葉樹林構成種
44		ツブラシイ	<i>Castanopsis cuspidata</i>	常緑広葉樹林構成種
45		スタジイ	<i>Castanopsis sieboldii</i>	栽
46		マテハシイ	<i>Lithocarpus edulis</i>	栽
47		アラカシ	<i>Quercus glauca</i>	常緑広葉樹林構成種
48		ウラシロカシ	<i>Quercus salicina</i>	常緑広葉樹林構成種
49		コナラ	<i>Quercus serrata</i>	落葉広葉樹林構成種
50	ニレ	エノキ	<i>Celtis sinensis</i> var. <i>japonica</i>	
51	クワ	マクワ	<i>Morus alba</i>	
52	イラクサ	ヤブマオ	<i>Boehmeria longispica</i> var. <i>longispica</i>	
53		メヤブマオ	<i>Boehmeria platanifolia</i>	
54		コアカリ	<i>Boehmeria spicata</i>	
55	タデ	イタドリ	<i>Reynoutria japonica</i>	
56		スイハ	<i>Rumex acetosa</i>	
57	ナデシコ	ミミナグサ	<i>Cerastium holosteoides</i> var. <i>angustifolium</i>	
58		オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>	帰化
59		ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>	
60		コハコヘ	<i>Stellaria media</i>	帰化

	科名	和名	学名	備考
61	ヒユ	ヒナタイノツチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>tomentosa</i>	
62	マツバサ	サネカスラ	<i>Kadsura japonica</i>	常緑広葉樹林構成種
63	シキミ	シキミ	<i>Illicium anisatum</i>	栽
64	モクレン	モクレンの1種	<i>Magnolia</i> sp.	栽
65	クスノキ	クスノキ	<i>Cinnamomum camphora</i>	栽
66		ヒメクロモン	<i>Lindera lancea</i>	落葉広葉樹林構成種
67		タブノキ	<i>Persea thunbergii</i>	常緑広葉樹林構成種
68	キンボウケ	ホトツツル	<i>Clematis apiifolia</i> var. <i>apiifolia</i>	
69		センニンソウ	<i>Clematis terniflora</i>	
70	メギ	ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	
71	アケビ	アケビ	<i>Akebia quinata</i>	林縁植生構成種
72		ミツハアケビ	<i>Akebia trifoliata</i>	林縁植生構成種
73	ツツラフジ	アオツツラフジ	<i>Cocculus trilobus</i>	林縁植生構成種
74	ツバキ	ツバキ	<i>Camellia japonica</i>	常緑広葉樹林構成種
75		サザンカ	<i>Camellia sasanqua</i>	栽
76		チャノキ	<i>Camellia sinensis</i>	
77		サカキ	<i>Cleyera japonica</i>	常緑広葉樹林構成種
78		ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>	
79		モッコク	<i>Ternstroemia gymnanthera</i>	栽
80	オトギリソウ	オトギリソウ	<i>Hypericum erectum</i>	
81	アブラナ	タネツケハナ	<i>Cardamine flexuosa</i> complex	
82	ユキノシタ	ウツギ	<i>Deutzia crenata</i>	
83		コアシサイ	<i>Hydrangea hirta</i>	
84	ハラ	キンミズヒキ	<i>Agrimonia pilosa</i> var. <i>japonica</i>	
85		ソメイヨシノ	<i>Cerasus yedoensis</i>	栽
86		サクラ属の1種	<i>Cerasus</i> sp.	栽?
87		ハビイチゴ	<i>Duchesnea chrysantha</i>	
88		カナメモチ	<i>Photinia glabra</i>	栽?
89		オハビイチゴ	<i>Potentilla sundaica</i> var. <i>robusta</i>	
90		カマツカ	<i>Pourthiaea vilosa</i> var. <i>laevis</i>	
91		ウメ	<i>Prunus mume</i>	栽
92		ノイハラ	<i>Rosa multiflora</i>	
93		ミヤコイハラ	<i>Rosa paniculigera</i>	
94		フユイチゴ	<i>Rubus buergeri</i>	
95		ニガイチゴ	<i>Rubus microphyllus</i>	
96		ナガバモミジイチゴ	<i>Rubus palmatus</i> var. <i>palmatus</i>	
97		ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	
98	マメ	ヒメクス	<i>Dunbaria villosa</i>	
99		ツルマメ	<i>Glycine soja</i>	
100		メトハキ	<i>Lespedeza cuneata</i>	
101		ハネミイヌエンジュ	<i>Maackia floribunda</i>	
102		クス	<i>Pueraria lobata</i>	
103		シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>	帰化
104		ヤハズエンドウ	<i>Vicia angustifolia</i> var. <i>segertalis</i>	
105	カタハミ	カタハミ	<i>Oxalis corniculata</i>	
106	フクロソウ	ゲンノショウコ	<i>Geranium nepalense</i> subsp. <i>thunbergii</i>	
107	トウダイクサ	アカメガシラ	<i>Mallotus japonicus</i>	
108	ユズリハ	ユズリハ	<i>Daphniphyllum macropodum</i>	栽
109	ミカン	イヌザンショウ	<i>Zanthoxylum schinifolium</i>	
110		ヒメハキ	<i>Polygala japonica</i>	
111	ウルシ	ヌルデ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>roxburghii</i>	
112		ハセノキ	<i>Rhus succedanea</i>	
113		ヤマハセ	<i>Rhus sylvestris</i>	
114		ヤマウルシ	<i>Rhus trichocarpa</i>	
115	カエデ	イロハモミジ	<i>Acer palmatum</i>	栽?
116	モチノキ	イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i>	
117		アオハダ	<i>Ilex macropoda</i>	
118		ソヨゴ	<i>Ilex pedunculosa</i>	
119		ウメトドキ	<i>Ilex serrata</i>	
120	ミツバウツキ	ゴンスイ	<i>Euscaphis japonica</i>	
121	アドウ	アドウ	<i>Ampelopsis glandulosa</i>	
122	ジンチョウゲ	カンビ	<i>Wikstroemia shikokiana</i>	
123	グミ	ツルグミ	<i>Elaeagnus glabra</i>	常緑広葉樹林構成種
124	スミレ	ニオイタチツボスミレ	<i>Viola obtusa</i> var. <i>obtusa</i>	
125		ナガバタチツボスミレ	<i>Viola ovato-oblonga</i>	
126		フモトスミレ	<i>Viola pumilio</i>	
127		シハイスミレ	<i>Viola violacea</i>	

	科名	和名	学名	備考
128	アリトウクサ	アリトウクサ	<i>Haloragis micrantha</i>	
129	ミスキ	アオキ	<i>Aucuba japonica</i>	
130		ミスキ	<i>Swida controversa</i>	栽
131	ウコキ	タラノキ	<i>Aralia elata</i>	
132		キツタ	<i>Hedera rhombea</i>	常緑広葉樹林構成種
133	セリ	チドメクサ	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i> var. <i>sibthorpioides</i>	
134		ヤブシラミ	<i>Torilis japonica</i>	
	双子葉植物(合弁花類)			
135	リョウブ	リョウブ	<i>Clethra barbinervis</i> Siebold et Zuccarini	
136	ツツジ	カインササドウダン	<i>Enkianthus sikokianus</i>	特筆種(北限自生地に近い)
137		トウダンツツジ 属の1種	<i>Enkianthus</i> sp.	栽?
138		ネシキ	<i>Lyonia ovalifolia</i> var. <i>elliptica</i>	アカマツ林構成種
139		アセビ	<i>Pieris japonica</i>	アカマツ林構成種
140		サツキ	<i>Rhododendron indicum</i>	栽
141		ヤマツツジ	<i>Rhododendron obtusum</i> var. <i>kaempferi</i>	アカマツ林構成種
142		モチツツジ	<i>Rhododendron macrosepalum</i>	アカマツ林構成種
143		コハノミツバツツジ	<i>Rhododendron reticulatum</i>	栽?
144		シャシヤンホ	<i>Vaccinium bracteatum</i>	常緑広葉樹林構成種
145		ナツハセ	<i>Vaccinium oldhamii</i>	
146		スノキ	<i>Vaccinium smallii</i> var. <i>glabrum</i>	
147	ヤブコウジ	マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>	常緑広葉樹林構成種
148		イスセンリョウ	<i>Maesa japonica</i>	
149	サクラソウ	コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i> var. <i>subsessilis</i>	
150	カキノキ	カキノキ	<i>Diospyros kaki</i>	
151	エゴノキ	エゴノキ	<i>Styrax japonica</i>	
152	ハイノキ	クロハイ	<i>Symplocos prunifolia</i>	常緑広葉樹林構成種
153	モクセイ	マルバアオタモ	<i>Fraxinus sieboldiana</i>	
154		ネスミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i>	常緑広葉樹林構成種
155		キンモクセイ	<i>Osmanthus fragrans</i> var. <i>aurantiacus</i>	栽
156		ヒイラギ	<i>Osmanthus heterophyllus</i>	常緑広葉樹林構成種
157	キョウチクトウ	テйкаカツラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i> forma <i>intermedium</i>	常緑広葉樹林構成種
158	アカネ	ヤエムグラ	<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>	
159		クチナシ	<i>Gardenia jasminoides</i>	常緑広葉樹林構成種
160		ハクソカスラ	<i>Paederia scandens</i> var. <i>scandens</i>	
161	クマツツラ	ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i> var. <i>japonica</i> forma <i>japonica</i>	
162		ヤブムラサキ	<i>Callicarpa mollis</i>	
163		クサキ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	
164	ソウ	クルマハナ	<i>Clinopodium chinense</i> subsp. <i>grandiflorum</i> var. <i>parviflorum</i>	
165		トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>	
166		カキドオシ	<i>Glechoma hederacea</i> subsp. <i>grandis</i>	
167	ゴマノハグサ	タチヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>	帰化
168	オオハコ	オオハコ	<i>Plantago asiatica</i>	
169	スイカズラ	ツクハネウツキ	<i>Abelia spathulata</i>	
170		コツクハネウツキ	<i>Abelia serrata</i>	やや稀
171		スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	
172		ガマスミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	
173		コハノガマスミ	<i>Viburnum erosum</i> var. <i>punctatum</i>	
174		ハコネウツキ	<i>Weigela coraeensis</i>	栽
175		タニウツキ	<i>Weigela hortensis</i>	分布上重要
176	キ	ヨモギ	<i>Artemisia indica</i>	
177		サシガソクヒソウ	<i>Carpesium glossophyllum</i>	
178		ノアサミ	<i>Cirsium japonicum</i>	
179		ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>	帰化
180		ハルジョオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>	帰化
181		ニガナ	<i>Ixeris dentata</i> var. <i>dentata</i>	
182		イワニガナ	<i>Ixeris stolonifera</i>	
183		ヤブタバコ	<i>Lapsana humilis</i>	
184		ヤクシソウ	<i>Paraixeris denticulata</i>	
185		コウヤボウキ	<i>Pertya scandens</i>	
186	キ	フキ	<i>Petasites japonicus</i>	
187		コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> subsp. <i>japonica</i> var. <i>japonica</i>	
188		セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>	帰化
189		セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>	帰化
190		オニタバコ	<i>Youngia japonica</i>	
	単子葉植物			
191	ユリ	チコユリ	<i>Disporum smilacinum</i>	
192		ササユリ	<i>Lilium japonicum</i>	希少種
193		ヒメヤブラン	<i>Liriope minor</i>	
194		ヤブラン	<i>Liriope muscari</i>	
195		ノキラン	<i>Metanartheicum luteo-viride</i>	
196		シヤビゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i> var. <i>japonicus</i>	
197		サルトリイバラ	<i>Smilax china</i> var. <i>china</i>	

	科名	和名	学名	備考
198	ヤマノイモ	ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>	
199		オンドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>	
200	アヤメ	ニワセキショウ	<i>Sisyrinchium rosulatum</i>	帰化
201		オオニワセキショウ	<i>Sisyrinchium iridifolium</i> var. <i>laxum</i>	帰化
202	イグサ	クサイ	<i>Juncus tenuis</i>	
203		ススメノヤリ	<i>Luzula capitata</i>	
204		ヤマススメノヒエ	<i>Luzula multiflora</i>	やや稀
205	イネ	アオカモシグサ	<i>Elymus racemifer</i> var. <i>racemifer</i>	
206		ヌカホ	<i>Agrostis clavata</i> subsp. <i>Matsumurae</i>	
207		ヒメコヌカグサ	<i>Agrostis valvata</i>	
208		メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>	帰化
209		ハルカヤ	<i>Anthoxanthum odoratum</i> subsp. <i>Odoratum</i>	栽(道路工事の際吹付) 帰化
210		カモカヤ	<i>Dactylis glomerata</i>	
211		オニウシノケグサ	<i>Festuca arundinacea</i>	栽(道路工事の際吹付) 帰化
212		トホシカラ	<i>Festuca parvigluma</i>	
213		トシヨウツナキ	<i>Glyceria ischyrroneura</i>	
214		シラゲカヤ	<i>Holcus lanatus</i>	帰化
215		ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>	
216		コチチミササ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i>	
217		ネザサ	<i>Pleiblastus chino</i> var. <i>Viridis</i>	
218		メダケ	<i>Pleiblastus simonii</i>	
219		ミゾイチコツナキ	<i>Poa acroleuca</i> var. <i>acroleuca</i>	
220		アオススメノカタビラ	<i>Poa annua</i> subsp. <i>annua</i>	帰化
221		ナカハクサ	<i>Poa pratensis</i> var. <i>pratensis</i>	
222		カニツリグサ	<i>Trisetum bifidum</i>	
223		シハ	<i>Zoysia japonica</i>	
224	サトイモ	マムシグサ	<i>Arisaema japonica</i>	
225	カヤツリグサ	コシユススケ	<i>Carex parviflora</i> var. <i>Macroglossa</i>	
226		エナシヒコクサ	<i>Carex aphanolepsis</i>	
227		メアオスケ	<i>Carex breviculmis</i> var. <i>aphanadra</i>	
228		ヒメカンスケ	<i>Carex conica</i>	
229		シラスケ	<i>Carex doniana</i>	
230		ヤマテキリスケ	<i>Carex flabellata</i>	やや稀
231		マスキサ	<i>Carex gibba</i>	
232		ヒカケスケ	<i>Carex lanceolata</i>	
233		ナキリスケ	<i>Carex lenta</i> var. <i>lenta</i>	
234		アオスケ	<i>Carex breviculmis</i>	
235		タチスケ	<i>Carex maculata</i>	
236		クサスケ	<i>Carex rugata</i>	
237		ニシノホンモンシスケ	<i>Carex stenostachys</i>	
238		モエキスケ	<i>Carex tristachya</i>	
合計	80	238	-	-

(動物・昆虫編)

1. 昆虫類



ハグロトンボ (カワトンボ科)
全身が光沢の強い金緑色で翅が黒い。主に川辺をひらひらと緩やかに飛ぶ。



オオシオカラトンボ (トンボ科)
シオカラトンボに似るが太身でがっしりした中型のトンボ。日本産シオカラトンボ属の中で最大。



ナツアカネ (トンボ科)
アキアカネに似ているがひとまわり小さい。アカトンボの仲間。



ノシメトンボ (トンボ科)
翅の先に黒褐色の帯がある細身のアカトンボ。アカトンボの中ではやや大型の種。



ミヤマアカネ (トンボ科)
翅の中程に黒褐色の帯がある中型のアカトンボ。



クキチャバネゴキブリ (チャバネゴキブリ科)
森の中に生息する一般的なゴキブリ。



ツコムシ(幼虫) (キリギリス科)
キリギリスの仲間でジジジジ…と鳴く。主に草地で見られる。



ショウリョウバッタ(幼虫) (バッタ科)
「チキチキ」と音を立てて飛ぶことからチキチキバッタと呼ばれることもある。



ツماغロイナゴ (バッタ科)
翅の先端と後足の節の部分の黒色が目立つやや大型のバッタ。



トゲナナフシ(幼虫) (ナナフシ科)
ほとんど動かないで枝に擬態していることが多い。



アブラゼミ (セミ科)
最も普通に見られるセミの一つ。ジリジリといかにも熱そうに鳴く。体色が茶褐色のため、油セミという。



ニイニイゼミ (セミ科)
サクラの木に多く集まる。サクラの木に止まると同化して見つけにくい。脱殻には泥が付いているのが特徴。



ヒグラシ (セミ科)

日暮れ時にカナカナカナとよく響く声で鳴くのでヒグラシの名がついた。



ウシカガ (幼虫、巣) (ウシカガ科)

幼虫は俗にアリジゴクと呼ばれる巣穴を造り、穴の下に潜ってアリ等が落ちるのを待って捕食する。



オオセンチコガネ (センチコガネ科)

センチコガネに酷似するが体色に光沢がある。この辺りに生息する個体は緑色に輝きミドリセンチコガネとも呼ばれる。



センチコガネ (センチコガネ科)

オオセンチコガネに酷似するが体色に光沢がない。両種とも糞虫で森の掃除屋である。



アオハナムグリ (コガネムシ科)

いろいろな花に潜り込んで花粉を食べるところからハナムグリと呼ばれる。コガネムシの仲間。



マメコガネ (コガネムシ科)

どこでも見かける小型のコガネムシの仲間。よく後脚をピンと伸ばしてとまっているのが見られる。



ウバタマムシ (タマムシ科)
 切り倒されたマツなどで普通にみられる大型
 タマムシ。美しい色彩をしたヤマトタマムシの
 メスと勘違いされる。



ウバタマコメツキ (コメツキムシ科)
 地味な体色なので姥(うば)の名がある。幼虫はマツ
 の倒木や切り株の樹皮下にいる。



キマワリ (ゴミムシダマシ科)
 長い脚で枯れ木や朽木の上を歩き回ることからキマ
 ワリと呼ばれる。



アカハナカミキリ (カミキリムシ科)
 花に集まるカミキリムシの仲間では体色がやや赤み
 がかっていることから呼ばれる。中型のカミキリ
 ムシ。



ナガゴマフカミキリ (カミキリムシ科)
 里山などで伐採された木や枝などで見られる中型
 のカミキリムシ。枯れ木の樹皮にそっくりなので
 注意していないと見過ごしてしまう。



ホソアシナガバチ (スズメバチ科)
 小型のアシナガバチで、葉の裏に巣を造ること
 が多く見つけにくい。



ダイミョウセセリ (セセリチョウ科)
 大名行列のときにひれ伏す姿に似ていることから、ダイミョウセセリの名がついた。



スジグロシロチョウ (シロチョウ科)
 モンシロチョウによく似ているが、翅に黒い条がある。モンシロチョウに比べ山の近くに多い。



ベニシジミ (シジミチョウ科)
 体色がオレンジ色をしたシジミチョウ。どこにでも見られる普通のチョウである。



ヤマトシジミ (シジミチョウ科)
 最も普通に見られるシジミチョウ。



ヒカゲチョウ (ジャノメチョウ科)
 明るい場所にはあまり出てこず、林内にいることが多い。樹液にもよく集まる。



ヒメウラナミシジミ (ジャノメチョウ科)
 小型のジャノメチョウで、葉上でじっとしているというよりはぴょんぴょん跳ねるように飛んでいることが多い。



オオトモエ（ヤガ科）
 大型の目玉模様のある蛾。昼間は葉裏などでじっとしていることが多い。



キシタバの一種（ヤガ科）
 後翅に鮮やかな黄色が目立つ中型の蛾。夜間、樹液や灯火に集まる。

2. 哺乳類



モグラの一種：坑道（モグラ科）
 土中にトンネルを掘ってネズミ等の餌を探す。この当りにはコウベモグラとアズマモグラが生息する。



ニホンリス：食痕(マツノツクリ)（リス科）
 食べ痕はエビフライのような形になる。



ニホンジカ：食痕(アガ)（ウシ科）
 食べ痕はナイフで切ったような痕になる。



ニホンジカ：剥跡(リョウブ)（ウシ科）
 樹皮を裂くように皮を剥ぐ。近年は食害が多い。

3 . 両生類



タゴガエル（アカガエル科）
山中に住むカエルで、産卵期には谷筋の水流に産卵する。
よく似た種にヤマアカガエルがいる。

4 . 爬虫類



ニホンカナヘビ（カナヘビ科）
ニホントカゲに似るが体色が地味なトカゲ。

確認種リスト

1. 昆虫類
2. 哺乳類
3. 両生類
4. 爬虫類
5. 陸産貝類
6. 甲殻類
7. ムカデ類

昆虫類確認種リスト

昆虫類

	目	科	種名	学名	備考
1	トンボ	カワトンボ	ハゲトンボ	<i>Calopteryx atrata</i>	
2		トンボ	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	
3			オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum triangulare melania</i>	
4			ナツアカネ	<i>Sympetrum darwinianum</i>	
5			マユタテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>	
6			アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>	
7			ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i>	
8			ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>	
9	ゴキブリ	チャバネゴキブリ	モリチャバネゴキブリ	<i>Blattella nipponica</i>	
10	ハエ	コオロギ	エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>	幼虫
11		マツムシ	アオマツムシ	<i>Calyptotrypus hibionis</i>	
12		カナタタキ	カナタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>	
13		キリキリス	クサキリ	<i>Homorocoryphus lineosus</i>	
14			ツユムシ	<i>Phaneroptera falcata</i>	幼虫
15			ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis orientalis</i>	幼虫
16		オンフハエ	オンフハエ	<i>Atractomorpha lata</i>	
17		ハエ	シウリヨウハエ	<i>Acrida cinerea</i>	幼虫
18			ヒロハネヒナハエ	<i>Chorthippus latipennis</i>	
19			ツマクロハエ	<i>Mecostethus magister</i>	
20		ヒシハエ	ヤセヒシハエ	<i>Tetrix macilents</i>	
21	ナナフシ	ナナフシ	トゲナナフシ	<i>Neohirasea japonica</i>	幼虫
22	カメムシ	アオハハコロモ	アオハハコロモ	<i>Geisha distinctissima</i>	
23		ハコロモ	アミガサハコロモ	<i>Pochazia albomaculata</i>	
24		セミ	クマセミ	<i>Cryptotympana facialis</i>	
25			アブラセミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>	
26			ツクツクホウシ	<i>Meimuna opalifera</i>	
27			ニイイセミ	<i>Platypleura kaempferi</i>	
28			ヒクラシ	<i>Tanna japonensis japonensis</i>	
29		コガシラアワフキムシ	コガシラアワフキ	<i>Eoscartopis assimilis</i>	
30		アワフキムシ	コシマアワフキ	<i>Peuceptvelus medius</i>	
31		オオヨコハエ	オオヨコハエ	<i>Cicadella viridis</i>	
32			マエジロオオヨコハエ	<i>Kolla atramentaria</i>	
33		ヒメヨコハエ	ヨツモンヒメヨコハエ	<i>Empoasca canara limbata</i>	
34		ヨコハエ	フタスジトガリヨコハエ	<i>Futasujinus candidus</i>	
35		キジラミ	ハニキシラミ	<i>Psylla coccinea</i>	
36		カスミカメムシ	モチツツシカスミカメ	<i>Orthotylus gotohi</i>	
37		サシガメ	シマサシガメ	<i>Sphedanolestes impressicollis</i>	
38		ナガカメムシ	ヒョウタンナガカメムシ	<i>Caridops albomarginatus</i>	
39			オオモンシロナガカメムシ	<i>Metochus abbreviatus</i>	
40			チャイロナガカメムシ	<i>Neolethaeus dallasi</i>	
41			ホソメダカナガカメムシ	<i>Ninomimus flavipes</i>	
42			オオメカメムシ	<i>Picocoris varius</i>	
43		オオホシカメムシ	ヒメホシカメムシ	<i>Physopelta cincticollis</i>	
44			オオホシカメムシ	<i>Physopelta gutta</i>	
45		ヘリカメムシ	ホシハラヒロヘリカメムシ	<i>Homoeocerus unipunctatus</i>	
46	アミメカゲロウ	ウスバカゲロウ	ウスバカゲロウ	<i>Hagenomyia micans</i>	
47			コウスバカゲロウ	<i>Myrmeleon formicarius</i>	幼虫・東屋下
48	コウチュウ	ハンシヨウ	ニワハンシヨウ	<i>Cicindela japana</i>	
49		オサムシ	マイマイカブリ	<i>Damaster blaptoides blaptoides</i>	
50		オサムシ	ジウジアトキリコムシ	<i>Lebia retrofasciata</i>	
51		センチコガネ	オオセンチコガネ	<i>Geotrupes auratus</i>	ミドリセンチコガネ
52			センチコガネ	<i>Geotrupes laevistriatus</i>	
53		コガネムシ	アオハナムグリ	<i>Eucetonia roelofsi</i>	
54			マメコガネ	<i>Popillia japonica</i>	
55			ヒメトラハナムグリ	<i>Lasiotrichius succinctus</i>	
56		タマムシ	ウハタマムシ	<i>Chalcophora japonica japonica</i>	枯マツに多い
57		コメツキムシ	クリイロアシブトコメツキ	<i>Anchastus aquilis aquilis</i>	
58			クシコメツキ	<i>Melanotus legatus legatus</i>	
59			ウハタマコメツキ	<i>Paracalais berus</i>	枯マツに多い
60		ホタル	オハホタル	<i>Lucidina biplagiata</i>	
61		ナガクチキムシ	ヨツホシヒメナガクチキ	<i>Holostrophus lewisi</i>	
62		コムシシダマシ	クロツヤキノコムシシダマシ	<i>Platydemus nigroaeneum</i>	
63			ツノホソキノコムシシダマシ	<i>Platydemus rectorne</i>	
64			キマワリ	<i>Plesiophthalmus nigrocyaneus nigrocyaneus</i>	
65		カミキリムシ	アカハナカミキリ	<i>Corymbia succedanea</i>	
66			オオヨツスシハナカミキリ	<i>Leptura regalis</i>	
67			ナガゴマフカミキリ	<i>Mesosa longipennis</i>	
68			ヘリゲロリンゴカミキリ	<i>Nupserha marginella</i>	

	目	科	種名	学名	備考
69		ハムシ	キヘリトゲハムシ	<i>Dactylispa masonii</i>	
70		オトシフミ	ハイイロチョッキリ	<i>Mechoris ursulus</i>	
71			カシルリオトシフミ	<i>Euops splendidus</i>	
72		ゾウムシ	カシワクチフトゾウムシ	<i>Myllocerus griseus</i>	
73			オオクチフトゾウムシ	<i>Macrocorynus variabilis</i>	
74	ハチ	アリ	クロオオアリ	<i>Camponotus japonicus</i>	
75			ムネアカオオアリ	<i>Camponotus obscuripes</i>	
76			ウメマツオオアリ	<i>Camponotus tokioensis</i>	
77			クロヤマアリ	<i>Formica japonica</i>	
78			クロクサアリ	<i>Lasius fuliginosus</i>	
79			トビイロケアリ	<i>Lasius niger</i>	
80			ムネホソアリ	<i>Leptothrax congruus</i>	
81			アメイロアリ	<i>Paratrechina flavipes</i>	
82			アミメアリ	<i>Pristomyrmex pungens</i>	
83		ヘッコウハチ	オオモンクロヘッコウ	<i>Anoplius samariensis</i>	
84		スズメハチ	トウヨウホソアシナガハチ	<i>Parapolybia varia</i>	
85	ハエ	ガガンホ	ミスシガガンホ	<i>Gymnastes flavitibia flavitibia</i>	
86		アブ	アカウシアブ	<i>Tabanus chrysurus</i>	
87	チョウ	セセリチョウ	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>	
88		アゲハチョウ	アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon nipponum</i>	
89			モンキアゲハ	<i>Papilio helenus nicconicolens</i>	
90			ナカサキアゲハ	<i>Papilio memnon thunbergii</i>	
91		シロチョウ	キチョウ	<i>Eurema hecabe</i>	
92			スジクロシロチョウ	<i>Pieris melete melete</i>	
93		シジミチョウ	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>	
94			ヘニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>	
95			ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica</i>	
96			ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>	
97		ウラキ'ンシジミ	ウラキ'ンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>	
98		タテハチョウ	メスクロヒョウモン	<i>Damora sagana ilone</i>	
99			ゴマダラチョウ	<i>Hestina japonica</i>	
100			ルリタテハ	<i>Kaniska canace nojaponicum</i>	
101			ゴミスジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>	
102		ジャノメチョウ	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>	
103			ゴジャノメ	<i>Mycalesis francisca perdiccas</i>	
104			ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i>	
105		シャクガ	ウコンエダシャク	<i>Corymica specularia pryeri</i>	
106			ピロードナミシャク	<i>Sibatania mactata</i>	
107			キマダラツバメエダシャク	<i>Thinopteryx crocoptera striolata</i>	
108		アゲハモドキガ	キンモンガ	<i>Psychostrophia melanargia</i>	
109		トクガ	ニワトコトクガ	<i>Topomesoides jonasii</i>	
110		ヤガ	オオトモエ	<i>Erebus ephesperis</i>	
111			キタハ'の一種	<i>Catocala sp.</i>	
計	10	56	111	-	-

哺乳類、両生・爬虫類確認種リスト

哺乳類

	目	科	種名	学名	備考
1	モグラ	モグラ	モグラの一種	<i>Mogera sp.</i>	坑道
2	ネズミ	リス	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	食痕
3	ウシ	シカ	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	食痕、剥跡、糞、足跡
計	3	3	3	-	

両生類

	目	科	種名	学名	備考
1	無尾	アカガエル	タゴガエル	<i>Rana tagoi</i>	幼体
計	1	1	1	-	

爬虫類

	目	科	種名	学名	備考
1	有鱗	トカゲ	ニホントカゲ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	
2	有鱗	カナヘビ	ニホンカナヘビ	<i>Eumeces japonicus</i>	
計	2	2	2	-	

陸産貝類

	目	科	種名	学名	備考
1	中腹足	ヤマタニシ	ヤマタニシ	<i>Cyclophorus herklotsi</i>	
2	柄眼	ナンバンマイマイ	ヌメニッポンマイマイ	<i>Satsuma japonica granulosa</i>	
3		ナンバンマイマイ	コヘリマイマイ	<i>Satsuma myomphala</i>	
計	2	3	3	-	

甲殻類

	目	科	種名	学名	備考
1	エビ	サワガニ	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>	
計	1	1	1	-	

ムカデ類

	目	科	種名	学名	備考
1	オオムカデ	オオムカデ	ヒスムカデ	<i>Scolopendra subspinipes mutllans</i>	
計	1	1	1	-	

(鳥類編)

1. 鳥類



ホオジロ（ホオジロ科）

平地から山地の灌木林、草地、農耕地などで年中見られる。眉斑、頬線、喉が白い。さえずりは「一筆啓上つかまり候」と聞こえる。



ヤマガラ（シジュウカラ科）

平地から山地の常緑広葉樹林で年中見られる。頭部は黒と淡い黄褐色の2色で体下部は茶褐色。ゆっくりしたテンポでツーピッピッ、ツーピッピッとさえずる。

確認種リスト

8 . 鳥 類

鳥類確認種リスト

鳥類

	目	科	種名	学名	渡り	近畿地区鳥類レッドデータブック
1	ハト	ハト	キジハト	<i>Streptopelia orientalis</i> (Latham, 1790)	留鳥	
2	キツキ	キツキ	アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i> (Linnaeus, 1758)	留鳥	準絶滅危惧種(繁殖個体群)
3	スズメ	ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i> (Temminck, 1830)	留鳥	
4		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i> Temminck & Schlegel, 1845	留鳥	
5		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i> (Kittlitz, 1831)	留鳥	
6		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i> (Linnaeus, 1758)	留鳥	
7		シジュウカラ	ヤマカラ	<i>Parus varius</i> Temminck & Schlegel, 1848	留鳥	
8			シジュウカラ	<i>Parus major</i> Linnaeus, 1758	留鳥	
9		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i> Temminck & Schlegel, 1847	留鳥	
10		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i> Brandt, 1843	留鳥	
11		アトリ	カラヒワ	<i>Carduelis sinica</i> (Linnaeus, 1766)	留鳥	
12			イカル	<i>Eophona personata</i> (Temminck & Schlegel, 1848)	留鳥	
13		カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i> (Linnaeus, 1758)	留鳥	
14			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i> Wagler, 1827	留鳥	
計	3	11	14	-	-	-

5、(仮称)市民の森環境整備協議会 規約・委員名簿

(仮称)市民の森環境整備協議会規約

(設置)

第1条 亀山市関町市瀬転石地内の市有林(以下「(仮称)市民の森」という。)を市民、事業者、県、市等が、現況の把握、整備構想の策定、整備の実施まで協働して行い、市民及び事業所職員の憩いの場として、また、環境学習の場として提供するため、(仮称)市民の森環境整備協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 協議会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) (仮称)市民の森環境整備構想の策定に関すること。
- (2) (仮称)市民の森環境整備の実施に関すること。
- (3) その他(仮称)市民の森環境整備に関すること。

(組織)

第3条 協議会は、委員25人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 森林環境整備に関する有識者
- (2) 市民又は市民団体の役員
- (3) 事業所の職員又はその関係団体の役員
- (4) 林業経営者又は森林関係団体の職員
- (5) 県及び市の職員
- (6) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年間とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員は、自らが会議に出席することができない場合、会議の同意を得て、その所属する団体又は事業所から代理人を出席させることができる。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、環境森林保全室において処理する。

(その他)

第8条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

(施行期日等)

1 この規約は、平成19年5月30日から施行する。

(委員の選任)

2 第3条第2項の委員の選任については、この規約の施行前に行うことができる。

(施行時の協議会の招集)

3 第6条第1項の規定にかかわらず、この規約の施行後最初に関開協議会の会議については、市長が召集する。

(仮称)市民の森 環境整備協議会委員名簿

(順不同・敬称略)

平成 19 年 5 月 30 日 (仮称)市民の森 環境整備協議会にて委嘱

会 長	高 橋 貞 信	シャープ株式会社 A V C 液晶事業本部総務部長
副会長	開 発 美佐子	亀山市水道水を考える会代表
委 員	川 北 要始補	亀山市文化財保護審議会委員
”	大 平 智 教	自然環境保全アドバイザー(財団法人三重県環境保全事業団職員)
”	岡 安 保 郎	自然環境保全アドバイザー
”	川 北 栄 治	坂下地区コミュニティ会長
”	田 中 恒 夫	沓掛の自然を愛し・育てる会事務局長
”	桜 井 好 基	水辺づくりの会鈴鹿川のうお座代表
”	山 本 安 夫	亀山商工会議所専務理事
”	北 窪 康 廣	シャープ株式会社 A V C 液晶事業本部亀山環境安全推進センター副参事
”	古 本 貴 彦	シャープ株式会社労働組合亀山支部支部執行委員長
”	宮 本 美 吉	日東電工株式会社亀山事業所環境安全課長
”	大 萱 宗 靖	林業経営者(鈴鹿森林組合理事)
”	中 澤 義 市	鈴鹿森林組合参事
”	田 中 幹 也	三重県農水商工部企業立地室長
”	仲 明 積	三重県四日市農林商工環境事務所森林・林業室長
”	里 宏 幸	亀山市産業建設部長
”	木 下 弘 志	亀山市環境森林部理事
”	国 分 純	亀山市環境森林部長

委員の異動

平成 19 年 11 月 26 日(第 4 回(仮称)市民の森 環境整備協議会で委嘱)

辞 任 日下部 徹男

後 任 北 窪 康 廣

6、(仮称)市民の森 環境整備構想 策定にかかる経過

(仮称)市民の森 環境整備構想策定にかかる経過

(仮称)市民の森 環境整備協議会

第1回	平成19年 5月30日	委員の委嘱 構想策定スケジュールの説明 現地観察会(春の部)の内容検討等
第2回	平成19年 8月 7日	現地観察会(春の部)の報告・検証 現地観察会(夏の部)の内容検討等
第3回	平成19年10月 2日	現地観察会(夏の部)の報告・検証 現地観察会(秋の部)の内容検討 環境整備構想(中間案)の内容検討等
第4回	平成19年11月26日	現地観察会(秋の部)の報告・検証 環境整備構想(素案)の内容検討 パブリックコメント、愛称募集方法検討等
第5回	平成20年 2月19日	パブリックコメントの結果報告・検討 環境整備構想の決定

(仮称)市民の森 現地観察会

第1回 (春の部)	平成19年 6月 9日	テーマ：植物・樹木 案内人：川北要始補委員 大平智教委員 岡安保郎委員 講師：県環境森林部職員 小菅忍氏 参加者：71名
第2回 (夏の部)	平成19年 8月26日	テーマ：動物・昆虫 講師：三重県立博物館 今村隆一氏 参加者：87名
第3回 (秋の部)	平成19年10月28日	テーマ：キノコ・野草 講師：県環境森林部職員 清田卓也氏 日本植物分類学会 加田勝敏氏 参加者：124名

(仮称)市民の森 環境整備構想

平成20年3月

発行:(仮称)市民の森 環境整備協議会

編集:(仮称)市民の森 環境整備協議会事務局(環境森林部環境森林保全室内)

〒519-1192 三重県亀山市関町木崎919番地の1(関支所内)

TEL 0595-96-1349 FAX 0595-96-2414

メール sekishisyo@city.kameyama.mie.jp